

会

派

の

意

見

文責は各会派にあります



平成自民クラブ

長岡京市中小企業振興基本条例の制定の議案が可決しました。本条例は平成28年に商工会が要望し、商店街団体などを加えた検討会で素案をまとめ、条例制定へと至りました。条例により農業・医療・福祉事業等を含め生活者と事業者がより豊かに持続的に発展することを期待します。一般質問で市政運営に関して質し、

の課題は、少子高齢化、脱炭素社会、デジタル技術への対応、長岡天神駅周辺まちづくりであるとの答弁を得ました。食文化・食育について質し、身近な食環境の学びや食文化の継承の重要性を捉え実践を図るとの答弁を得ました。学校施設整備に関しては、長四小・長九小の整備工事、長三小の再整備設計、長五小は西側農地を購入し施設再整備をするとの答弁を得ました。私たちは、新たな50年を見据え、未来につながるまちづくりを進めます。八木 浩・中小路貴司・三木常照

日本共産党

108億円の次は600億円!?

新庁舎等建設には108億円の予算が組まれています。阪急長岡天神駅周辺整備は総事業費が600億円にもなりうるとわかりました。線路の高架化、天神石段下までの道路拡幅、そして駅東西の広場・道路整備と土地区画整理事業、再開発事業を行った場合の市の試算です。そのうち市の負担は180億円超です。市長は「未確定であり議論は不適切」と述べましたが、新庁舎の建

設費も返済はこれからであり、各小中学校など公共施設の建て替えも次々と進めなければなりません。少子高齢化も進みます。住民負担や福祉への影響を議論するのが当然です。日本共産党は、駅周辺の安全対策を最優先に、身の丈に合った事業を市民合意で行うよう求めています。昨年度の決算は前代未聞の15・4億円の実質単年度赤字となりました。日本共産党は、さらなるコロナ対策・物価高騰対策を求めています。日本共産党提案の「給食費を無償に」「郵便投票を要保護3以上に」の意見書が可決されました。(小)

会派とは、同じ意見や考えを持つ議員が集まってつくるグループのことです。ここでは9月定例会で審議された内容について、各会派の意見を紹介します。



輝（かがやき）

9月議会では、令和3年度の各会計の決算審査が行われ、決算の全議案が認定されました。一般会計の決算額は、歳入382・7億円、歳出358・5億円で、実質単年度収支も15・4億円の黒字決算となり、財政健全化法に基づく4指標についても、公表以来良好な数値を継続している状況です。

また、長岡京市中小企業振興基本条例が全会一致で可決されました。中小企業の振興が、市民生活の向上

に果たす役割は重要なものであり、条例の基本方針に基づく具体策の推進により、地域経済の更なる活性化に期待するところです。

そして、大伴議員と富田議員から一般質問をさせていただきました。内容については、この議会日よりや議会ホームページに録画が配信されていますのでご覧ください。

10月1日に長岡京市は市制施行50周年を迎えました。次の50年へ向けての更なる発展を目指して、引き続き尽力してまいります。

富田達也・宮小路康文
大伴 望・進藤裕之

公明党

令和四年第四回九月定例会において令和四年度一般会計補正予算・令和三年度一般会計歳入歳出決算・特別会計・上下水道事業会計の議案を審議し認定・可決されました。令和三年度一般会計決算では「ながすく応援事業」や「高齢者等タクシー移動応援事業」「リフォーム工事券」等市独自の支援策によって長引くコロナ禍にあつて市民生活と地域経済の下支えとなり評価するものです。実質財政健全化法に基づく四指標も

良好な数値であり財政の健全化が維持されています。一般質問では、一期庁舎での業務開始にあたりICTを活用した「ワンストップ窓口」等市民サービスの向上を提案しました。また女性の経済的自立に向けた「女性デジタル人材育成を強力に推進するための支援を求め」意見書と農地の保全に向けた「地方の農地の保全と活用のための支援拡充を求め」意見書を提案し可決されました。市制50周年を踏まえ次の50年へとさらに発展する長岡京市の構築のためこれからも全力で働いて参ります。

福島和人・石井啓子

平成西山クラブ

令和3年度も、感染症対策に追われる1年となってしまいました。まさにコロナと共にあった日々でした。中小路市長におかれましては非常時の対応に正解のない中で、初めての事象に対して決断の連続であったと想像致します。

そのような中でも、感染予防に力を注いだ令和2年度とは異なり、令和3年度は感染対策と子ども達の活動をいかに両立させていくか、という視点で取り組まれた1年であった

ように思います。修学旅行延期のためのキャンセル料の補助やICTの積極的な活用など、子どもの想いに寄り添った教育活動を進められたことを評価します。本来、人口政策は国が担うべき政策課題だという点に異論はありません。しかし、少子高齢化の影響は我々基礎自治体にも及びます。これからの50年を力強く切り拓いていくために、今後とも、行政と議会の真摯な議論を積み重ね、子育てしやすい環境を整え、誰もが自分らしく、安心して暮らせるよう引き続き取り組んでまいります。

上村真造・白石多津子・田村直義

ふえいすぶつく 長岡京市議会公式 Facebook



Facebookページ「京都府長岡京市議会」では、さまざまな議会の情報を発信し、適宜更新しております。

Facebookのアカウントをお持ちの方は、今後ともどんどん「いいね!」「フォロー」「シェア」をお願いします。

Facebookのアカウントを持っていないでも閲覧できるため、ぜひ一度、ご覧ください!

← QRコードからチェック!

